

仙台市議会

市政活動報告

市民フォーラム仙台

2021年
12月号

仙台市議会議員
(青葉区)

佐藤わか子

〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-5-12 一番町中央ビル3F
TEL 022-266-7577 FAX 022-352-6190



ごあいさつ

昨年の2月ごろから始まったコロナウイルスの感染拡大は全世界を大混乱におとしいれたまま、2年が過ぎようとしています。国内ではワクチン接種の影響もあってか感染が落ち着いている状況にはありますが、まだまだマスクを外せる状況には至っていない所です。この間、様々な業種で、業績の大幅な落ち込みが続き、大変な経営危機に見舞われている所もあります。仙台市内においても、厳しい状況は同じで、中心部商店街でも空き店舗が目立って増えている事に大きな不安を感じている所です。仙台市議会議員として、今は市民の皆さんの声をしっかり聞き、様々な支援の情報をお伝えする事と、少しでも地域の経済が上向くような支援策を提案していく事に全力を傾けていく覚悟です。皆様から忌憚のないご意見、ご提案をお寄せいただければ幸いです。今後とも市民の皆さんの お役に立てることを使命とし全力でただひたむきに仕事に取り組んでまいります。更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

～言い続けて改善につながった事例① うなり坂の拡幅工事

以前のわか子レポートで、大崎八幡宮近くの「うなり坂」の拡幅工事のニュースを乗せましたが、その時は半分だけでした。今回、残り半分の工事が始まる事になりました。最後に残っている48号線に面した、うなり坂の入り口部分は、48号線から右折して登ってくる事になり、48号線に右折レーンも設置しなければならないので、来年度以降になるようです。ずいぶん時間が掛かってしまいましたが、やっと来年度にはうなり坂の入り口から荒巻排水所までの道路が、確実に拡幅されることになりました。



残りの拡幅工事が決まったうなり坂

～言い続けて改善につながった事例②

国見駅の西側に、砂利道道路が残っている所があります。その奥に12軒ほどの住宅があり、以前から舗装してほしいと要望を頂いていました。道路の権利関係を調べたところ、国有林の管理道路という事で、所有者は国でした。長い事、舗装させて欲しいと国に働きかけてきましたが、やっと私道整備補助事業を活用し、整備することをみとめていただき、舗装工事に着手することになりました。今年中には完成する予定です。



近日中に舗装工事に入る砂利道

～言い続けてもうすぐ実現しそうな愛子駅自由通路のエレベーター設置

3年前のわか子レポートでも、少しでも早い時期にエレベーター設置を働き掛けていくと、報告していました。かなり時間はかかりましたが、やっと業者に発注を掛けられる所まで来ました。今年中に業者が決まれば、今年度と来年度でエレベーター設置工事に入れる見通しになりました。今後とも一日も早い完成を働き掛けてまいります。

お困りごと相談室 (市政に対するご提案・ご要望もお気軽にどうぞ!)

どんなことでもかまいませんので、いつでもお気軽にご連絡ください。

場 所：佐藤わか子お困りごと相談室

住 所：仙台市青葉区一番町 2-5-12 一番町中央ビル 3F

電 話：022-266-7577 FAX：022-352-6190

E-mail：wakakos@beige.ocn.ne.jp URL：http://www.satowakako.com

火、水、木曜日の10時から4時まではスタッフがおります。

それ以外、また緊急の場合は佐藤わか子の携帯にご連絡ください。携帯番号は **090-1060-1254**



9月の仙台市議会第3回定例会の一般質問と決算委員会で私が質問した抜粋と、なぜその質問をしなければならないと思ったかその背景をレポートにまとめましたので目を通していただければ幸いです。



～不登校対策の一つとして不登校特例校の設置を検討すべきでは？～

●私の質問:今まで仙台市は、不登校対策として在籍校に戻す学習支援の適応指導教室に力を入れてきた。しかし在籍校には戻りたくない、あるいは既存の学校の枠についていけない児童生徒は確実に存在している。今年4月に開校した岐阜市の公立の不登校特例校が不登校児童生徒の受け皿として全国的に話題になった。仙台市も多くの不登校児童生徒の新たな受け皿の一つとして、公立の不登校特例校の設置を前向きに早急に検討すべきではないか、ご見解を伺う。

■教育長の答弁:不登校特例校は、実態に配慮したカリキュラムを編成することで、柔軟な学習支援ができる学校だが、設置には人材の確保や立地など課題も考えられる。本市は、不登校対策として個別指導を行う杜のひろばの拡充、学校内の別室登校の充実に努めてきた。特例校は公立、私立それぞれあり、導入に至る背景も様々なので、引き続き情報の収集・調査に努めていきたい。

★私の考え:不登校対策は、仙台市がこれもやっつる、あれもやっつるという事をどんなに強調しても、実際の不登校児童生徒の思いに寄り添っていないければ、効果を上げる事は難しいと考えています。不登校児童生徒の中には、既存の学校のシステムにどうしてもなじめない子はいるのです。様々な居場所を提供するというのであれば、不登校の生徒の実態に配慮した特別な教育が受けられる特例校も不登校児童生徒の受け皿の一つとして有効と考え提案しました。不登校児童生徒の思いにしっかり答えられる、仙台市になるよう声を上げ続けていきます。

～地球温暖化対策について～

●私の質問:私の質問:仙台市は2050年度まで、温室効果ガス排出量実質ゼロにする「カーボンニュートラル」の実現をめざしている。本気で脱炭素都市を目指すならば、市民一人一人に温室効果ガス削減を意識してもらう取り組みが重要。例えば他の政令都市、札幌市や京都市で実施している「ノーカーデー」の導入なども検討すべきと考えるが如何か？

■環境局長の答弁:ノーカーデーにつきましては、温室効果ガスの削減を意識していただく一つの契機になるとは考えますが、温室効果ガス削減の実効性を確保するためには、公共交通機関や自転車等を継続して利用していただく事が重要と認識しています。

★私の考え:私がノーカーデーを提案した理由は、温室効果ガス削減の実効性の確保というよりは、市民一人ひとりが温室効果ガス削減を、月1回でも考えてもらう、意識してもらうために導入してみたらどうす

か?というものでした。実際札幌市(月2回実施)では、毎回市民にアンケートを取っていて、その中で、ノーカーデーの日は自然と地球温暖化の事を意識するという声が寄せられていますし、京都市では、広く京都市内の事業者にも呼び掛けて200社以上が参加してくれていて、その事業者名をホームページで公表しています。ノーカーデーに協力してくれる人の数ではなく、自分で出来る所から温暖化対策に取り組もうとする意識付けにはなるとは思いますので、あきらめず声を出していきます。

～国の特区を活用し市街化調整区域に建物を建てられるようにすべき～

●私の質問:市街化調整区域に新たな建物は建てられない事は理解しているが、市街化調整区域の中には田んぼでも畑でもなく住宅地になっている所もある。この住宅地も例外なく壊してしまったら新たな建物が建てられないという事になっているが、国の制度を利用してエリアを決め建物を建てられるようにすべきと思うが如何か？

■高橋副市長の答弁:市街化調整区域については、土地をお持ちの方が自由に土地利用出来ないという声を聞く事もあるが、仙台市は機能集約型の都市を目指していて、市街地の拡散を抑制することが重要と考え、農家住宅や既存宅地以外の新たな建築は認めない事としている。

★私の考え:仙台市は市街地の拡散を抑制する事が重要としているが、この考え方からすると市街地とされている所だけは守り、周りの市街化調整区域は、どんどん過疎地になっていってもかまわないと、いう風にも受け取れる。建物が建てられないという事は、新たな人口の流入は見込めず、どんどん人口が減っていったって過疎化が進む事につながる。全国の多くの都市で国の特区制度を活用し、市街化調整区域の過疎化に積極的に取り組んでいるのに、なぜ仙台市が、頑なに市街化調整区域の過疎化の問題に取り組もうとしないのか理解に苦しむ。このままでは、里山は残ってもそこを維持管理する人がいなくなってしまう恐れさえある。市街化調整区域の過疎化の問題に、諦めないで引き続き取り組みます。

子どもたちの笑顔を守りたい!

